

比治山女短大	○	枝	広	瑤	子
広島大教育		山	田	都	一
比治山女短大		田	頭	仙	子

目的：織物の曲げ特性は、運動的機能、風合い、整容・装身性に影響を及ぼす重要な性能である。そこで織物の曲げ特性に織物の構成因子（組織・厚さ・密度、織糸の太さ・カバーファクター等）が及ぼす影響について検討を行った。

方法：織物の構成因子が織物の曲げ特性に及ぼす影響について検討する場合は、数種の因子を一定とし、残りの因子を系統的に変化させた試料を用いるのが望ましいのであるが、このような織物は非常に入手困難である。そこで本報では、入手できた織物の内から、綿100%と毛100%の織物で、織糸番手、組織（平織、斜文織、朱子織、変化平織、変化斜文織）、密度の異なるものを試料として用いた。試験はKES-FM2純曲げ試験機を使用して、曲げ特性値（曲げ剛性、ヒステリシスの幅）を求めた。

結果：①織物の表と裏の組織が同じ場合は、表曲げと裏曲げの特性値に差がみられない。②織物の表と裏の組織が異なる場合（織糸の浮沈状態が表と裏とで差がある場合）は、表曲げと裏曲げの特性値に差がみられる。クランプされた浮糸が外側になるように曲げられた場合は、浮糸が内側になるように曲げられた場合よりも、曲げ特性値は大きくなる。③織物の曲げ特性値は、織糸が太くなるほど、織物が厚くなるほど、密度が大きくなるほど、カバーファクターが大きくなるほど、つまり、織糸の自由度が少なくなるほど、大きくなる傾向があり、曲げ特性と織糸の番手、厚さ、密度、カバーファクターとの間には、相関関係がみられる。